

グレープフルーツ等のかんきつ類と薬の飲み合わせについて

ひかりが丘薬局

H21.11月改定号

薬は飲み合わせによって、一方の薬が他方の薬の効果や副作用の現われ方を変化させることがあります。これを「相互作用」といいます。

食べ物と薬にも、このような相互作用が問題になる組み合わせがあります。よく問題となるものに、グレープフルーツ等のかんきつ類があります。ある種の薬は、グレープフルーツを飲むと、薬の作用が強くなってしまふ場合があります。

—相互作用の原因物質は？—

グレープフルーツ（ジュース）中のフラノクマリン類が原因物質として明らかになっています。フラノクマリン類は、薬を分解する酵素を邪魔する作用があり、薬物の消化管からの吸収が増加するために作用が増強し、副作用が現われやすくなります。

—ジュースと果実の関係は？—

フラノクマリン類は果肉に大部分存在し、袋・皮・種には少量しか含まれないことが報告されていますが、マーマレードのような果皮が入った食品でも相互作用を起こす可能性がある、との報告もあります。

グレープフルーツジュース 200ml 程度（グレープフルーツ半個～1個）の摂取で相互作用が起こると報告されており、薬との相互作用を防ぐには、グレープフルーツ（ジュース）類摂取後、3～4日の間隔を開ける必要があります。

グレープフルーツ（ジュース）等のかんきつ類と相互作用が問題になっている薬でよく知られているものに、高血圧の薬でカルシウム拮抗薬があります。（全てのカルシウム拮抗薬ではありません。）この薬を服用中の方がグレープフルーツジュースを飲むと、血圧の極度の低下や心拍数の増大が認められたり、頭痛、顔面紅潮、頭のふらつきといった副作用が出やすくなったりします。

その他にも多数の薬と相互作用が報告されていますので、薬剤師におたずね下さい。



※かんきつ類は多くの種類がありますが、薬との相互作用が明らかになっているものはわずかであり、むしろほとんどのものが分かっていません。

<医薬品との相互作用がある、と報告されているもの>

グレープフルーツ…マーシュ（別名：ホワイト）、トムソン（別名：ピンクマーシュ）、ルビー、スタールビー、オロブランコ（別名：スウィーティー）、メロゴールド、ポメロ（別名：ザボン、ボンタン）	
サワーオレンジ（ダイダイ）	金柑（たまたま）
夏みかん	ハッサク
ポンカン	晩白柚（バンペイユ）
いよかん	文旦（ブンタン）
絹皮（きぬかわ）	

<医薬品との相互作用を受けない、と報告されているもの>

スイートオレンジ（バレンシアオレンジ）	マンダリンオレンジ
レモン	温州みかん
カボス	デコポン

◎何かご質問等ありましたら、お気軽に薬剤師へおたずね下さい。